

映像 + トーク

越境する伝統—観世寿夫の賭け

1978年12月8日に能役者・観世寿夫氏が53歳の若さで亡くなって、すでに30年が経ちます。西町観世とも呼ばれた観世流分家、鍔之丞家に生まれ、第二次大戦後の前衛音楽や前衛絵画に強い共感を示し、身をもって同時代の能の世界を「外部」へと開こうとしたその生涯は、今もってそれに立ち会った人々には他に類例を見ない冒険、まさに舞台表現者としての生涯を賭けた賭けと映っています。

能作品以外での寿夫氏の生前の映像は、ローマの悲劇詩人セネカ作による悲劇『メーデーア』（渡邊守章台本・演出、1975年「冥の会」）、生前親交のあったフランスの俳優・演出家ジャン＝ロイ・バローの来日公演の際に、青山鍔仙会舞台で催された『演劇作業の根拠—寿夫・バローの立合い』（渡邊守章構成・司会、1977年）、岩波ホール演劇シリーズ第二弾であったエウリピデース『バックスの信女』（松平千秋訳、鈴木忠志構成・演出、1978年・羽田澄子監督）の三作品しか残されていません。

今回は『メーデーア』『演劇作業の根拠—寿夫・バローの立合い』にて、寿夫氏と共に仕事をした渡邊守章氏を講師に、これらの三作品の映像を出発点に寿夫氏の仕事とその射程を考えていきたいと思います。

講師：渡邊守章（演出家、京都造形芸術大学教授）

聞き手：森山直人（同大学准教授）

■日時：1月13日（火） 16時30分～19時（15分前開場）

■会場：京都造形芸術大学（人間館）B1F 映像ホール 参加費無料（要予約）

■申込方法：氏名・電話番号・メールアドレス・所属を明記の上、e-mail・FAX もしくはお電話にてお申し込みいただくか、京都芸術劇場チケットセンターに直接お越してください。

■お申込み：京都芸術劇場チケットセンター（京都造形芸術大学内）

TEL:075-791-8240/FAX:075-791-9438（平日10～17時）

e-mail: ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp

（件名に「越境する伝統—観世寿夫の賭け」申し込みと明記ください）

■お問合せ：舞台芸術研究センター TEL:075-791-9437/e-mail:info@k-pac.org

[講師プロフィール] 渡邊守章（わたなべ・もりあき）

演出家。『空中庭園』主宰。東京大学名誉教授。京都造形芸術大学教授。フランス文学・表象文化論専攻。主な演出作品に、能ジャンクション『當麻』、『薔薇の名—長谷寺の牡丹—』。著書『舞台芸術の現在』（放送大学教育振興会）、訳書にクローデル『縺子の靴』（岩波文庫）、ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫）ほか多数。